

インフルエンザQ&A

Q.なぜインフルエンザの予防接種をするの？

A. インフルエンザは、予防接種を受けることで、“かかりにくくなる”“かかっても軽くすむ”というメリットがあります。特に抵抗力の低いお子さんや高齢者の方などは、予防接種を受けて備えていた方が安心です。

Q.インフルエンザと風邪の違いは？

A. インフルエンザと風邪は、原因となるウイルスの種類が異なり、別々の病気です。風邪はのどや鼻に症状が現れるのに対し、インフルエンザは急な高熱が特徴です。さらに、倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状も強く、これらの激しい症状は通常5日間ほど続きます。

Q.ワクチンは1回接種でよい？

A. 9歳～13歳以上の方は、1回接種を原則としています。それ未満の方は、2回接種です。

※日本では13歳からの1回接種が慣習ですが、世界保健機関（WHO）においては9歳以上の小児は「1回注射」が適切であるとの見解を示しています。

Q.昨年ワクチンの接種を受けましたが

今年も受けた方がよい？

A. インフルエンザワクチンは、そのシーズンの流行が予測されると判断されたウイルスを用いて製造されているため、昨年インフルエンザワクチンの接種を受けた方であっても今年のインフルエンザワクチンの接種を検討して頂くほうが良いと考えられます。

Q.予防接種は何歳から接種できるの？

A. 6ヶ月以上から接種可能です。ただし、低年齢のお子さんは免疫がつきにくく、発症予防（ならない）ことよりも、重症化予防（入院したり、障害が残るような状態にならない）ことを目的とした接種になります。そのため、小さなお子さん

のいるご家庭では、家族みんなで予防接種や手洗いうがいなどの感染予防につとめて守ることをおすすめします。

Q.その他の乳幼児定期ワクチンと同時接種も可能なの？

A. 可能です。

Q.他のワクチンとの接種間隔について注意することはありますか？

A. コロナワクチンとインフルエンザワクチンは、前後14日以上あける必要があります。その他のワクチンには制限はありません。

Q.効き目はどのくらい続くの？

A. 接種後、抗体ができるまで約2週間かかり、持続期間は約5ヶ月です。

Q.予防接種当日、お風呂に入ってもいいの？

A. 熱などがなければ、入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすらないようにしましょう。

Q.予防接種後に注意することを

教えてください

A.予防接種を受けたあと通常 30 分間は、急な副反応が起きることがありますので接種会場で様子を観察するか、先生とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。また接種後 1 週間は副反応の出現に注意しておきましょう。発熱や発疹などの体調の変化に気付いたら、すぐに接種した病院に連絡してください。

Q.家族がインフルエンザと診断されました。

気をつけることは？

- A.①患者はマスクをする
②うがい・手指衛生
③部屋の空気を入れ替える
(1 時間に 1~2 回)

Q.インフルエンザワクチンの接種は

いつ受けるのがよい？

A.日本では、インフルエンザは例年 12 月～4 月頃に流行し、例年 1 月末～3 月上旬に流行のピークを迎えますので、12 月中旬までにワクチン接種を終えることが望ましいと考えられます。

Q.妊娠中および授乳中の場合、予防接種は

どのようにすればよい？

A.妊娠中は風疹のような生ワクチンは接種できませんが、インフルエンザのような不活化ワクチンは問題なく接種できます。妊娠中や産後はインフルエンザが重症化しやすいため、接種を推奨します。

Q.インフルエンザにかかりましたが、いつから学校や職場へ行ってもよい？

A.一般的に熱が下がっても、しばらくはウイルスの感染力が残っているため、他の人に感染させる可能性があります。そのため、熱が下がってから最低 2 日間（幼児は 3 日間）、インフルエンザ発症から 5 日間は自宅で療養することをお勧めします。

※(参考) 現在、学校保健安全法では「発症した後 5 日を経過し、かつ、解熱した後 2 日（幼児にあつては、3 日）を経過するまで」をインフルエンザによる出席停止期間としています。



その他気になること心配なことがあれば
お気軽にご相談下さい。

ほーむけあクリニック

☎ 730-0048 広島市中区竹屋町 8-8

☎ (082)546-0185